

# 救急科専門研修プログラム

*We Deliver The Best*



 飯塚病院

innovate and evolve

## はじめに

救急科専門医、そして飯塚病院の救急科専門研修プログラムに興味をもっていただきまことにありがとうございます。

本プログラム冊子は飯塚病院が理想とする救急科専門医とその専門医を目指すにあたって、当院が準備している研修内容をお伝えしたいと思い作成いたしました。

本プログラム冊子は救急科専門医を目指す皆様がもっとも重要と考える部分を中心に従来のプログラム冊子よりコンパクトに作成しました。

プログラム冊子をご覧頂き、当院についてさらに知りたいと思ったら、まずは当院に見学に来ていただけますと幸いです。

皆様からのご連絡お待ちしております。

## 目次

はじめに.....	1
救急科専門医の使命 .....	3
飯塚病院救急科専門研修プログラムの理念.....	3
プログラムの概要と特徴 .....	4
専攻医の評価・修了判定について .....	4
定員と研修期間について .....	4
研修施設群の概要と指導医 .....	5

## **救急科専門医の使命**

救急科専門医の社会的責務は、医の倫理に基づき、急病、外傷、中毒など疾病の種類に関わらず、救急搬送患者を中心に、速やかに受け入れて初期診療に当たり、必要に応じて適切な診療科の専門医と連携して、迅速かつ安全に診断・治療を進めることにあります。さらに、救急搬送および病院連携の維持・発展に関与することにより、地域全体の救急医療の安全確保の中核を担うことが使命です。

## **飯塚病院救急科専門研修プログラムの理念**

飯塚病院救急科専門研修プログラムを通じて、1次から3次まで、僻地・離島あるいは大都市における全ての救急診療に対応できる基本的能力を身に付ける救急科専門医を育成するとともに皆さんの救急科専門医取得後のキャリアプランも見据えた研修を提供します。



## プログラムの概要と特徴

### ER 型救急医育成コース

#### <対象>

- 1次から3次まで幅広い症例を経験したい方。
- 外傷に強い救急科専門医を目指したい方
- 救急科のみでなく、総合診療科、集中治療科はじめ院内43科で研修したい方

#### <特徴>

- 重篤患者受け入れ 1,933件 全国第11位
- ER総受診者数（walk in+救急車）約32,000人/年
- 脳神経外科、外科の医師がERを兼任しており  
外傷に強い先輩医師から指導を受けることができる。

#### <研修モデル>

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
専攻医 1年目	飯塚病院ER						飯塚病院 総合診療科 (重症チーム)			飯塚病院 集中治療科		
専攻医 2年目	連携施設研修						飯塚病院ER					
専攻医 3年目	循環器内科			麻酔科			飯塚病院ER					

※ローテーション先や期間については専攻医の希望を加味し、調整します。

## 専攻医の評価・修了判定について

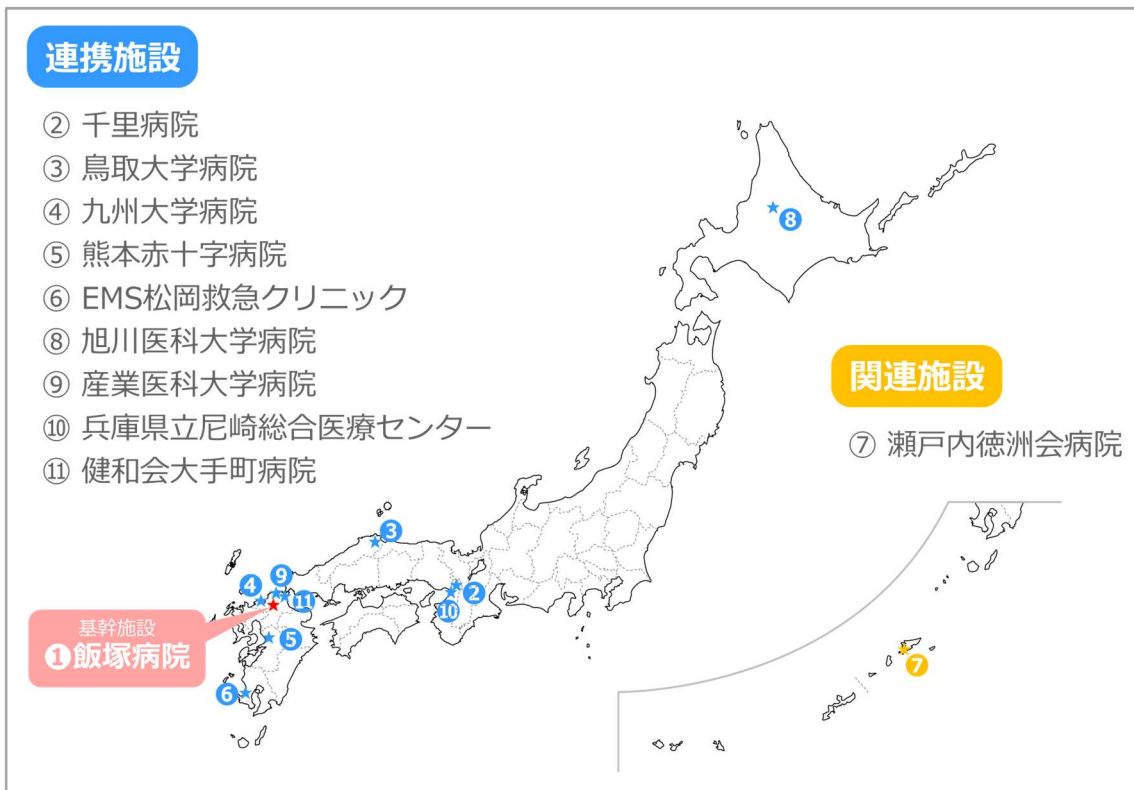
年に2回、プログラム管理委員会にて研修状況の評価し、専門医認定の申請年度（専門研修修了時あるいは以後）に修了判定を行います。

## 定員と研修期間について

定員：4名/年

研修期間：3年間

## 研修施設群の概要と指導医



### ① 飯塚病院

#### □ 施設概要

- ・ 病床数：1,048
- ・ 救急科領域の病院機能  
救命救急センター、災害拠点病院、ドクターカー配備  
地域メディカルコントロール協議会中核施設、DMAT 指定医療機関
- ・ 救急車受入れ件数 5,365 件（2021 年度）
- ・ 救急外来受診者数 21,326 人（2021 年度）
- ・ 共通講習（医療安全、医療倫理、感染対策）を院内で受講可能

#### □ 指導医紹介

- ・ プログラム統括責任者 鮎川勝彦
- ・ 救急科専門研修指導医数 4 名（統括責任者含む）  
山田哲久、平松俊紀、石上雄一郎

#### □ 施設紹介

- ・ 飯塚病院救命救急センターは、福岡県筑豊医療圏人口 40 万人唯一の 3 次救急施設であり、救急科医師（スタッフ・専攻医）と初期研修医および後期研修医・専攻医が 365 日 24 時間救急搬送患者に対応しています。

## ②千里病院

### □施設概要

- ・病床数：343 床
- ・救急科領域の病院機能  
三次救急医療機関（救命救急センター）、災害拠点病院  
ドクターカー配備、地域二次救急医療機関  
地域メディカルコントロール（MC）協議会中核施設
- ・救急車受入れ件数 4,155 件（2017 年度）
- ・救急外来受診者数 8,467 件（2017 年度）

### □指導医紹介

- ・救急科指導医（学会）3 名、救急科専門医（学会）9 名、その他の専門医（集中治療 2 名、認定内科医 1 名、総合内科 1 名、糖尿病 1 名、腎臓 1 名、透析 1 名、外科 2 名、外傷 2 名、Acute care surgery 2 名、脳神経外科 1 名、脈管 1 名、整形 1 名）

### □施設紹介

- ・緑に囲まれ街との調和がとれた千里地域に位置する当院は、社会福祉法人である済生会の病院として「心のこもった医療」を病院の理念として掲げている。積極的な病診連携を図り、地区の開業医も診療に協力、登録医約 731 名（2018.4.1 現在）を有するオープンシステムの急性期病院である。2006 年 4 月 1 日に千里救命救急センターと併合して 1 次から 3 次までの救急に完璧に対応できる病院となった。同年 7 月 1 日には災害拠点病院に対応した新館に移転している。病院の延床面積 28,800 平米で、最新の設備、診療機器のもとで研修が行える。

### □研修内容

- (ア) 外来症例の初療（麻酔、手術、カテーテル治療を含む）
- (イ) ICU 入院症例の管理
- (ウ) 病棟入院症例の管理
- (エ) 病院前診療（ドクターカー）
- (オ) オンラインメディカルコントロール
- (カ) 災害訓練への参加
- (キ) off the job training への参加

### □連携施設研修目標

- ・救急患者、特に重症患者の診療について、初期対応だけでなく、その後の侵襲的治療や集中治療について、総合的に理解を深めること。

### ③鳥取大学病院

#### □施設概要

- ・病床数：697 床  
(一般 649、精神 40、結核 6、感染症 2)
- ・救急科領域の病院機能  
三次救急医療施設（救命救急センター）  
災害拠点病院、日本 DMAT 指定病院  
鳥取県 DMAT 指定病院  
原子力災害拠点病院ドクターカー配備  
ドクターヘリ基地病院  
医師同乗型ドクターヘリ医師搭乗施設
- ・救急車受入れ件数 2515 件（2013 年度）
- ・救急外来受診者数 5346 人（2013 年度）

#### □指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 3 名  
指導医名：本間正人、齋藤憲輝、亀岡聖史

#### □施設紹介

- ・鳥取県米子市に位置し、地域に密着した救急医療を提供しています。救命救急センターとして三次救急医療を提供するとともに、多くの救急車患者、Walk-in 患者に対応しています。年間約 400 件のドクターカー出動に加え、平成 30 年 3 月よりドクターヘリの基地病院として現場からの救急医療を実践しています。鳥取中部地震の際には災害拠点病院として機能すると共にこれまでも様々な災害に対して DMAT や国際緊急援助隊の一員として活動してきました。

#### □研修内容

- ・救急外来でのガイドラインやエビデンスに基づいた診療
- ・救急病棟での救急集中治療
- ・ドクターカーやドクターヘリに搭乗するための基礎的な知識・技術（搭乗の可否は研修期間により異なります）
- ・災害拠点病院、DMAT、原子力災害拠点病院の従事者に必要な基本的な知識、研修会、訓練の参加 など

#### □連携施設研修目標

- ・2 次救急患者や Walk-in 患者に対し単独で診療できる能力を目標とします。さらに、三次救急患者に対してはチームの一員として初療や集中治療管理ができる能力を獲得することを目標とします。さらにドクターカーやドクターヘリによる現場活動を実践できる基本的な知識や能力を学びます。





#### ④九州大学病院

##### □施設概要

- ・病床数：
- ・救急科領域の病院機能  
救命救急センター、災害拠点病院、DMAT 指定医療機関、  
福岡地域メディカルコントロール協議会中核施設
- ・救急車受入れ件数 1,951 件（2015 年）
- ・救急外来受診者数 人（2016 年）

##### □指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 2 名  
指導医名：永田高志、日浅謙一

#### ⑤熊本赤十字病院

##### □施設概要

- ・病床数：490
- ・救急科領域の病院機能  
救命救急センター、小児救命救急センター、赤十字国際医療救 援拠点病院、  
熊本県基幹災害拠点病院
- ・救急車受入れ件数 7,924 件（2016 年）
- ・救急外来受診者数 68,001 人（2016 年）

##### □指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 6 名  
指導医名：奥本克己、桑原謙、林田和之、加藤陽一、岡野雄一、井上克一

##### □施設紹介

- ・熊本赤十字病院救命救急センターは、昭和 55 年 3 月から、熊本県における救急医療の拠点として、24 時間 365 日、一次救急から三次救急まで全ての救急患者の受入を行っており、「断らない救急」の実現を目指しています。救急専門医をはじめ、各専門医と病院全体のバックアップ体制で、年間 6 万人以上の救急患者を受け入れており、熊本県のドクターヘリ基地病院としての役割も担っております。重症患者の搬入には、ドクターヘリ、防災ヘリ、ドクターカーを積極的に活用し、熊本市救急ワークステーションを院内に設置するなどプレホスピタルケアについても強化に努めています。

## □研修内容

- ・熊本赤十字病院ERでの勤務を行います。昼夜問わず、救急車や直接来院患者（以下 Walk-In）に対応するため、完全2交代制のシフト勤務体制を敷いています。

夜勤の後は、最低24時間 off であることが約束されています。

### ●日勤（8：00～20：00）

スタッフリーダー1名+スタッフまたは専攻医2-3名+初期研修医1-2名

### ●夜勤＝準夜+深夜（20：00～翌8：00）

スタッフリーダー1名+スタッフまたは専攻医1-2名+初期研修医1-2名

### ●休み

基本的に呼び出されることはありません

### <専攻医の勤務例>

1日	2日	3日	4日	5日	6日	7日	8日	9日	10日	11日	12日	13日	14日	15日
月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土	日	月
準夜	深夜	日勤	準夜	深夜	休み	準夜	深夜	日勤	休み	準夜	深夜	日勤	学会	休み

- ・シフト中は、救急車、Walk-In 患者の対応を行います。救急隊からの搬送以来のホットラインは全て医師が受け、場合によってはオンラインメディカルコントロールを実施します。
- ・傷病状況やリクエストに応じてドクターカーでの現場出動や、熊本市消防局のワークステーションを通しての現場出動にも対応しています。
- ・夜間、特に深夜帯は緊急度の判断を慎重に行ったうえで治療を開始しながら ER で管理を行い、翌朝各科にコンサルテーションをしたり、入院をさせたうえで翌朝各科に引き継いだりという診療を積極的に行っています。
- ・研修期間、学年に応じてドクターヘリの体験搭乗を受けることも可能です。体験搭乗では主に見学とフライトドクターの診療の補助を行います。

## □連携施設研修目標

### ●1年次

- ・プレホスピタルで上級医の補助をしながら活動できる
- ・基礎的な救急診療が行える
- ・チームの一員として上級医の補助をしながら重症患者の診察ができる
- ・初期臨床研修医からコンサルトを受けることができる

### ●2年次

- ・プレホスピタルで主体的に活動できる
- ・応用的な救急診療が行える
- ・チームの一員として上級医と共に主体的に重症患者の診療ができる
- ・様々なレベル、職種に教育的な配慮ができる

## ⑥EMS 松岡救急クリニック

### □施設概要

- ・救急科領域の病院機能  
救急告示クリニック
- ・救急車受入れ件数 件 (2017年) 687件
- ・救急外来受診者数 人 (2017年) 8296人

### □指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 1名  
指導医名：松岡良典

### □施設紹介

- ・鹿児島県南九州市にある4床の有床診療所である。薩摩半島の中心に位置しており、薩摩半島全体から患者さんが集まる。24時間、365日救急医療と普段のかかりつけ医も行っている。救急車は3次救急まで受け入れており、地域の最後の砦として機能している。

### □研修内容

- 1) 1次救急から3次救急までの救急手技を習得する。  
JATEC、ACLS、BLSに基づいて救急の基本手技を実践する。輪状甲状靭帯切開、心嚢穿刺、心嚢開窓術、開胸心臓マッサージ、緊急ペーシング、経静脈ペーシング、開腹ガーゼパッキング、持続的血液濾過透析、緊急麻酔などの応用手技も習得する。  
当施設では重症患者に対して救命のために徹底した外科的処置を行っている。  
救急診療指針に基づいて知識・手技の習得を目指す。
- 2) かかりつけ医としてあらゆる疾患の診断・治療法を習得する。  
当施設では、かかりつけ医としてあらゆる疾患の定期外来を行っている。専門科あるいは臓器別ではなく、一人の患者さんに生じているあらゆる病変に対して、診断・治療を行っている。  
担当領域は、がんの発見、血管病の予防（高血圧、脂質異常、糖尿病管理）、整形外科・脳外科・循環器・呼吸器・一般内科外来、小児外来、専門外来（リウマチ・漢方）、外傷、健診など多岐に渡る。  
関節腔内注射、神経ブロック、胸水・腹水穿刺、骨折・脱臼整復、異物摘出、内視鏡検査など習得できる手技も多い。
- 3) 圧倒的な救急患者数を診察・治療する。  
病院と異なる点は、全患者を自分で診察・診断し、治療方針まで立てる必要があることである。責任を持って診察することで、診断能力が飛躍的に上昇する。MRI、CT、採血など全ての検査が24時間可能である。  
\* 研修期間中は指導医が指導します。

4) 整形外科の基本手術を研修する。

助手・執刀医として、整形外科の手術（年間 100 例）を経験する。

上下肢骨折外傷、開放骨折、四肢切断・再接着、四肢ピンニング、腱縫合、手根管症候群、ばね指、ドケルバン氏病、肘部管症候群、軟部腫瘍摘出などの手術を行う。

救急領域で必要な処置、減張切開術、創外固定、鋼線牽引などの基本となる手技を身につけることができる。

5) 学会発表と論文作成を行う。

当施設は学会発表、論文作成を積極的に行っている。

余裕がある研修医は学会発表や論文の作成の指導まで行う。

海外の impact factor のある雑誌に投稿する。

□連携施設研修目標

- ・ 1 次救急から 3 次救急までの救急手技を習得する。
- ・ かかりつけ医としてあらゆる疾患の診断・治療法を習得する
- ・ 整形外科の基本手術を研修する。
- ・ 学会発表と論文作成を行う。

⑦瀬戸内徳洲会病院

□施設概要

- ・ 病床数：60 床
- ・ 救急科領域の病院機能  
救急告示病院
- ・ 救急車受入れ件数 270 件（2017 年）
- ・ 救急外来受診者数 1,608 人（2017 年）

□指導医紹介

- ・ 救急科専門研修指導医数 0 名
- ・ 外科学会専門医・肝臓学会専門医 1 名
- ・ 日本消化器外科学会指導医 1 名
- ・ 日本プライマリーケア学会指導医 1 名
- ・ 日本専門医機構総合診療領域特任指導医講習会受講済 1 名

□施設紹介

1.施設基準

- ・ 60 床、急性期一般入院料 5、入院基本料
- ・ 入院料・・地域医療包括ケア、特殊疾患入院医療
- ・ 入院加算・・急性期看護補助、療養環境、救急医療管理、重症者特別後発医薬品、感染防止対策、退院調整、医療安全認知症ケア、診療録等

- ・ 医学管理料 ・ ・ 夜間休日救急搬送医学管理料、薬物管理指導料、ニコチン依存症管理料、小児外来診察料、がん性疼痛緩和指導管理料、がん治療連携指導料等
  - ・ リハビリ ・ ・ 脳血管疾患、運動器、呼吸器がん各リハビリテーション料
  - ・ 在宅 ・ ・ 医学総合、療養支援等
  - ・ 介護 ・ ・ 指定居宅サービス事業所、指定居宅介護支援事業所
- 2.24 時間対応 ・ ・ CT (64 列) MRI (1.5 テスラー)、単純レントゲン写真臨床検体検査 (採血・検尿) 可能、当院救急車あり
- 3.胃カメラ、大腸カメラ、超音波検査、人工呼吸管理、透析可能、全麻可能

#### □ 研修内容

1. 個々の患者の背景を理解し、介護福祉と連携した高齢者医療が出来る。
2. 初診患者 (救急患者を含む)、入院患者、在宅患者の総合診療が出来る。
3. 高齢者の救急医療が出来る。

#### □ 連携施設研修目標

1. 加計呂麻徳洲会診療所 ・ ・ 離島の診療所で総合診療が出来る。
2. グループホームあぎなの郷で訪問診療が出来る。

### ⑧ 旭川医科大学病院

#### □ 施設概要

- ・ 病床数 : 602 床
- ・ 救急科領域の病院機能  
救命救急センター、災害拠点病院、ドクターカー配備、  
地域メディカルコントロール (MC) 協議会参加施設、  
ドクターヘリ協力病院
- ・ 救急車受入れ件数 約 2,000 件/年
- ・ ドクターヘリ受入件数 約 80 件/年

#### □ 指導医紹介

- ・ 救急科専門研修指導医数 7 名  
指導医名 : 小北直宏、岡田基、丹保亜希仁、小林厚志、高氏修平、  
中嶋駿介、川口哲

### ⑨ 産業医科大学病院

#### □ 施設概要

- ・ 病床数 : 678 床
- ・ 救急科領域の病院機能  
二次救急医療施設、災害拠点病院、  
地域メディカルコントロール (MC) 協議会中核施設

- ・救急車受入れ件数 3,590 件/年（2018 年度）
- ・救急外来受診者数 8,091 人（2018 年度）

#### □指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 4 名  
指導医名：蒲地正幸、相原啓二、二瓶俊一、金澤綾子

#### □連携施設研修目標

- 1 年次
  - ・プレホスピタルで上級医の補助をしながら活動できる
  - ・基礎的な救急診療が行える
  - ・チームの一員として上級医の補助をしながら重症患者の診察ができる
  - ・初期臨床研修医からコンサルトを受けることができる
- 2 年次
  - ・プレホスピタルで主体的に活動できる
  - ・応用的な救急診療が行える
  - ・チームの一員として上級医と共に主体的に重症患者の診療ができる
  - ・様々なレベル、職種に教育的な配慮ができる

### ⑩兵庫県立尼崎総合医療センター

#### □施設概要

- ・病床数：730 床
- ・救急科領域の病院機能  
三次救急医療施設（救命救急センター）、災害拠点病院、  
地域メディカルコントロール（MC）協議会中核施設
- ・救急車受入れ件数 11,626 件（2020 年）
- ・救急外来受診者数 24,337 人（2020 年）

#### □指導医紹介

- ・救急科専門研修指導医数 12 名  
指導医名：西内辰也、吉永孝之、畑菜摘、井場大樹、大久保祐希、米倉開理、鈴木崇生、松本優、恒光健史、山上雄司、嶋岡英輝、則本和伸

#### □施設紹介

兵庫県立尼崎総合医療センターは、兵庫県南東部の阪神南北医療圏 170 万人を診療圏とした地域中核病院であり、次のような特徴を有しています。

(ア) 2015 年 7 月に、旧兵庫県立尼崎病院（500 床）と旧兵庫県立塚口病院（400 床）を統合新築移転した 730 床の新しい高度急性期病院としてオープンしました。

(イ) 医療機関としての運営理念は、高度専門医療、急性期・救急医療、教育研修・臨床研究機能の推進です。

- (ウ) 救急・災害部門として、救命救急センター、小児救命救急センター、災害拠点病院、DMAT 病院指定を受け、他にも総合周産期母子医療センター、2 類感染症指定病院、がん診療連携拠点病院、地域医療支援病院などの各種指定を受けています。
- (エ) 救命救急センターは、重症度別に対応できる初療（ER）が 18 室（手術室仕様・陰圧隔離室仕様含む）と、入院部門であるセンター病床 52 床（E-ICU 125 床、救急病床 40 床）からなります。緊急検査・処置部門として CT&MRI、血管造影、内視鏡部門も救命救急センター内或いは同じ 1 階に設置され、24 時間稼働体制です。
- (オ) 他の重症治療ユニットや専門治療ユニットとして、General ICU&HCU 26 床、Coronary CU&HCU 16 床、Neuro CU 9 床、Pediatric ICU 8 床、M/F ICU 6 床、NICU&GCU 27 床、Hybrid を含む手術室 20 室（緊急手術室 2 室を含む）、身体合併症精神病床 8 床などが専門医の 24 時間体制で稼働しており、総合急性期高度医療機能が整備されています。
- (カ) 救命救急センターの運用は ER 型であり、ER 総合診療科、救急集中治療科、小児科、小児救急科に加えて全診療科の協力体制で、あらゆる急性期病態に対応しています。受け入れ患者の病院都合による選別を行わないため、H29 年度救命救急センターでの年間取扱い患者数は 24,300 人、うち救急入院数 8,400 人、救急車搬入（ドクヘリ/カーを含む）11,600 件と多数の患者を受け入れています。
- (キ) 研修指導は、救急医学会指導医・専門医のみならず、ER 総合診療科や感染症科、救急集中治療科、小児科、小児救急科医師が主に行いますが、その他全診療科のバックアップ体制があります。指導にあたる在籍医師は常勤スタッフ医師 200 名のほか、全国公募の多くのレジデント仲間（専攻医 120 名・研修医 48 名、他）がいます。
- (ク) 院内教育研修環境も充実しており、院内で ICLS や BLS 講習会、外傷に対するシミュレーション研修など開催しています。スキルラボでは各種シミュレーターを用いたトレーニングを各自が行うことができます。

#### □研修内容

ER 型救命救急センターとして運営しているため、じつに多彩な救急症例が数多く集まります。重症外傷・中毒など外因性だけでなく各種ショック、脳卒中、循環器救急、急性腹症、妊産婦、新生児～小児救急、各種感染症など、急性期疾患なら何でもありの研修環境です。

多数・多様な救急症例を協力診療科の指導下でも経験できます。また、救急関連の臓器別専門センター・診療科への院内ローテーションは、プログラム管理委員会で個別専攻医の研修進捗状態を勘案のうえ、希望をすり合わせて実施します。

### □連携施設研修目標

専攻医は本研修プログラムによる専門研修により、以下の能力を備えることができます。

1. 様々な傷病、緊急度の救急患者に、適切な初期診療を行える。
2. 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる。
3. 重症患者への集中治療を行うことができる。
4. 内科、感染症に関する幅広い知識を習得し、診療を行える。
5. 救急から入院となった患者の担当医として、入院診療行える。
6. 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることができる。
7. 病院前診療を行える。
8. 病院前救護のメディカルコントロールが行える。
9. 災害医療においてリーダーとしての役割を果たすことができる。
10. 救急診療に関する教育・指導が行える。
11. 救急診療の科学的評価や検証が行える。
12. プロフェッショナリズムに基づき最新の標準的知識や技能を継続して修得し能力を維持できる。
13. 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
14. 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる。

## ⑪健和会大手町病院

### □施設概要

- ・病床数：499 床
- ・救急科領域の病院機能  
二次救急医療施設、災害拠点病院、  
地域メディカルコントロール（MC）協議会中核施設
- ・救急車受入れ件数 7,322 件（2019 年度）  
7,258 件（2020 年度）
- ・救急外来受診者数 22,955 人（2019 年度）  
18,566 人（2020 年度）

### □指導医紹介

- ・日本救急医学会指導医・専門医 2 名、日本救急医学会専門医 5 名
- ・救急科専門研修指導医数 6 名  
指導医名：徳田隼人、井上徹英、古城都、三浦正義、前田穰、服部智弘

### □施設紹介

当院は、年間救急車 6000 台以上、救急患者 25000 人以上を受け入れており、「断らない救急」をモットーに 24 時間 365 日、一次から三次までの救急



医療を対応しています。

救急初療室は北米型 ER の体制をとっており、専門科に関わらず救急医が幅広い視野で全科の初期対応を行い、緊急 CT、MRI および緊急手術、IVR 対応も迅速に出来るように医師・看護師・コメディカル全体で体制を整えています。重症・多発外傷や心肺停止状態の症例も受け入れており、CPA・外傷チームという複数医師の同時呼び出し体制を設けて、初期から根治的治療までの円滑で迅速な診療を行います。

集中治療室では脳血管障害や虚血性心疾患など明らかに担当科が判明している患者については各診療科が中心となり全身管理を行います。一方、重症呼吸不全、敗血症性ショック、多臓器障害、中毒、心肺停止、多発外傷などの重症病態や担当科が多岐に渡る場合には救急科が初期治療を担当するとともに、院内各科との連携を密にしつつ初期治療に引き続く集中治療を行います。

また、全ての救急患者に医学的な観点だけでなく、社会背景や家族背景等を考慮した全人的医療を心掛けており、受診された患者・家族及びご紹介いただいた施設の様々なニーズに応える努力をしています。

#### □研修内容

- i. 救急室における救急外来診療（クリティカルケア・重症患者に対する診療含む）
- ii. 外科的・整形外科的救急手技・処置
- iii. 重症患者に対する救急手技・処置
- iv. 集中治療室、救急科病棟における入院診療
- v. 救急医療の質の評価 ・安全管理
- vi. 地域メディカルコントロール（MC）
- vii. 災害医療
- viii. 救急医療と医事法制

#### □連携施設研修目標

1. 様々な傷病、緊急度の救急患者に、適切な初期診療を行える。
2. 複数患者の初期診療に同時に対応でき、優先度を判断できる。
3. 重症患者への集中治療を行うことができる。
4. 他の診療科や医療職種と連携・協力し良好なコミュニケーションのもとで診療を進めることができる。
5. 必要に応じて病院前診療を行える。
6. 病院前救護のメディカルコントロールが行える。
7. 災害医療において指導的立場を発揮できる。
8. 救急診療に関する教育指導が行える。
9. 救急診療の科学的評価や検証が行える。
10. プロフェッショナルリズムに基づき最新の標準的知識や技能を継続して

修得し能力を維持できる。

11. 救急患者の受け入れや診療に際して倫理的配慮を行える。
12. 救急患者や救急診療に従事する医療者の安全を確保できる。